

# 海外での教育

渡航から帰国までの、アメリカ・カナダでの日本の子どもの教育



## お子さんの受けている教育のレベルは？

世界の国・地域と、理科の成績を比べると？

「アメリカの教育は、たいしたことないですね」  
 「アメリカからの帰国生は、良くできますよ」  
 「現地校の勉強を見ていると、レベルが低いので、心配です」  
 「日本にいたときよりも、3倍は勉強してるな」  
 「宿題をこなすだけでも大変です」

日本の教育関係者、現地校で学ぶ子どもとその保護者の皆さんから、アメリカの教育について、様々な評価や感想を聞きます。

児童生徒の個人的な事情を取り除いても、「素晴らしい」と「大変だ・心配だ」との両極端の意見が出てきます。なぜなのでしょう？

また、皆さんのお子さんが通うアメリカの学校の教育レベルは、どの程度なのでしょう？

### 大きな教育格差

理数科目だけの学力調査ですが、TIMSSに参加したマサチューセッツ州・ミネソタ州とアメリカ（国）の成績を右の表で見ると、州による成績の差が大きいことが分かります。

たとえば、4年生の理科の成績は、マサチューセッツ州 571 点、ミネソタ州 551 点、アメリカ 539 点です。もし、マサチューセッツ州 571 点が州の最高点で、アメリカの点数が全米の州の平均を示しているとする、その差 32 点低い点数、すなわち 507 点の州があることとなります。この調査では世界の平均点を 500 点としていますので、507 点はその平均より少し上で、チェコやニュージーランドなど同じレベルになります。

このテストで、マサチューセッツ州はシンガポール 587 点に次いで世界 2 位、日本はミネソタ州の次の 6 位で 548 点でした。

この結果は、一般的にいわれている、アメリカ国内の州・学区・地域、時には学校間の教育格差の存在を明確に物語っています。

### お子さんの受けている教育は？

私の経験で、アメリカ在住の日本人の子どもの 99%は、全米で最上位にランクされる学区の学校で学んでいる、と断言できます。それは、生活環境の良い地域に住み、子どもを恵まれた環境の学校で学ばせるといふ、日本人（東アジア人）の文化観・価値観に根ざしていると思います。

国際理数学力試験結果（TIMSS-2007）

4 年生 理科			8 年生 理科		
1	Singapore	587	1	Singapore	567
2	Massachusetts 州	571	2	Chinese Taipei	561
3	Chinese Taipei	557	3	Massachusetts 州	556
4	Hong Kong	554	4	日本	554
5	Minnesota 州	551	5	Korea	553
6	日本	548	6	England	542
7	Russian Federation	546		Hungary	539
8	Latvia	542	7	Czech Republic	539
	England	542		Minnesota 州	539
10	United States	539	10	Slovenia	538
11	British Columbia 州 Canada	537	11	Hong Kong	530
	Hungary	536		Russian Federation	530
12	Ontario 州, Canada	536	13	Ontario 州, Canada	536
	Italy	535	14	British Columbia 州	535
			15	United States	520

この表は、4年生参加 36 ヵ国、8年生参加 48 ヵ国のうち上位の国・地域の点数を、得点順に並べたものです。点数は、0-1000 点の範囲で、全参加国の平均点が 500 点になるように、統計的な処理をされています。

TIMSS: Trends in International Mathematics and Science Study (2007)

出典：http://timss.bc.edu/timss2007/index.html

一度、お子さんの学んでいる学校や学区の全米ランキングなどを調べるか、聞いてみてください。高校であれば、SAT/ACT などの統一試験の学校の成績と、州や全米の平均を比べる、また、州の統一試験の学校順位などを参考にします。きっと、それレベルの高さに驚かれると思います。

教育格差の大きなアメリカですが、お子さんは、全米、いや上の 2 つの州の例でも分かるように世界的に見ても、さらにひよっとすると日本と比べても、レベルの高い教育を受けているのです。

保護者の皆さん自身の経験と価値観でお子さんの受けている教育を「大変だ」と心配するよりは、現地校の教育を信じて、その中でより良い成果を収めるようにお子さんをサポートしていくことが、大切ではないでしょうか？

その結果は、日本帰国後に「宝」として評価されます。

グローバル社会でこれから生きていく子ども達の教育を考える参考のなればと思ひ、TIMSS の結果を紹介しました。

松本 輝彦